

# バックホー 農業自由自在

第14回



車体がピッタリ収まったこの小屋作りにもバックホーを利用

## スギ林の間伐と 除雪・利雪にバックホー

新潟県湯沢町・清水守さん

新潟県湯沢町。越後湯沢駅の東南東の方角に、その形状から「東洋のマツターホルン」と形容される大源太山だいげんたきさんがそびえている。標高はおよそ一六〇〇m。駅から車で二〇分ほど行くと、標高五六〇mほどのところにある大源太山の登山口に辿り着く。

その登山口のすぐ近くで、清水守さん（五二歳）は広さ七〇aほどの「大源太農園」を営んでいる。道路を挟んで農園のすぐ北側には、大源太山の姿を映す大源太湖。農園からの眺めは雄大だ。

清水さんを訪ねた四月上旬、あたりはまだ雪深く、人の背丈を優に超える残雪があった。

### 定年前、帰農で畑と山を継ぐ

清水さんは高校卒業後、町役場に勤めた。三二年間の勤務を経て、定年を待たずに退職したのが二〇〇九年三月のことだ。子どもが中学に入り、手が



間伐に活躍するハサミ型のアタッチメント (写真:大源太農園提供、下も)

かからなくなったこと、奥さんが隣の南魚沼市役所で勤めていることなどの条件が重なって、「辞めるならいまいしかない」と思ったのがきっかけだった。父親が遺してくれた畑と山で、退



バックホー小屋の支柱用の杭をバケットで打ち込む

職前から野菜と山菜を作っていたこと、退職前の数年で農林関係の役職を務めたことは、農園を始める後押しとなった。  
清水さんがこの二年間で栽培したのは、一〇品目ほどの野菜と山菜だ。トウモロコシ・エダマメ・神楽なんぼん、それにウド・タラの木・フキノトウ・行者ニンニク・シイタケ・コシアブラ・ナメコなど。山菜はスギの林間を利用しての栽培だ。タラの木・フキ

ノトウ・行者ニンニクなどの山菜にとっては、強い日差しは大敵で、スギ林の木陰はちょうどよい。いまは一面雪で地面は見えないが、これらの山菜は、雪の下で力強く育っている。

### ハウスの除雪のために バックホーを購入

清水さんがバックホーを購入したのは、二〇一〇年三月のことだ。動機は、住宅の裏手に作ったビニールハウスが雪でつぶれないよう除雪するためだった。

この一年のあいだ、夏場はスギ林の間伐とバックホーの小屋作りに、秋から冬にかけては雪室づくり、そして冬から春にかけては雪を掘り返して雪が解けるのを早める用途に、バックホーが活躍した。雪の掘り返しは、いわば雪を「天地返し」する作業。空気に触れる面積を増やすことで雪解けを早めることができる。

## 安さより安心を取った

バックホーの車種は、コベルコのSK30SR。機械重量は三七超で、この連載で紹介したバックホーの中でもっとも大きい。キャビンタイプも本シ



リーズ初。清水さん曰く「雪の中で作業するから、キャビンは欠かせない」とのことだ。キャビンの中にはラジオの受信器とCDプレイヤーを備え付け、作業を楽しむ工夫をしている。車体は一五年ほど前の中古品。新品のように見えるのは、購入時に業者に塗り直してもらったためだ。業者には「塗装しなければ一〇万〜二〇万くらいは安くできる」と言われたが、雪の中で作業するのに、塗装がなければす



バックホー小屋の裏に雪室用の穴（幅2.5m×深さ2m×奥行き8m）を掘った。穴の周囲（側面）にシートを敷いて、底にはスギ枝を敷き詰め、三角形の保管箱（これも手作り）を置く。この箱の中にリンゴやジャガイモを貯蔵（上、写真：大源太農園提供）。穴全体に雪を盛って雪室の出来上がり（下）

ぐに錆びてしまうと考えると購入時に依頼した。

購入先は重機を扱う隣の業者だ。価格はおよそ一二〇万円。インターネットでは、より安価なものも目にしたが、「遠方の業者だと何かあったときに修理を頼めない」と、多少の割高は承知のうえで、安心のために地元の業者を選んだ。

レンタルも検討したが、バックホーは耐久性が高く、長く使っても値が下がりにくい。「いざとなれば売ればいい」と、購入を決めた。周囲でも除雪のためにバックホーを所有している人が多く、バックホーが身近な存在だったことも購入決断の一因だ。

## 間伐作業に役立つハサミ

林の中は、木の幹や枝でスペースが限られている。操作中にバケットやアーム、キャタピラをあちこちの木に何度もぶつけたが、その分、バックホー



雪の掘り返し。融雪が早まる

の大きさや操作の感覚が身に付いた。「ぶつけても安心だし、林の中の操作はいい勉強になる」ということだ。

本シリーズ初登場のハサミ型のアタツチメントも、林の中で大活躍している。林の手入れが行き届いていないところでは木が混んでいて、間伐のために木を切っても他の木に引っ掛かって倒れてこない。そんなときに登場する

のが、「疾風<sup>はやて</sup>」の名を持つこのアタツチメント。二〇万円ほどで購入した。

ハサミの操作はバケットの操作と変わらない。バケットを畳む方向にレバーを引くと、ハサミが閉じる。倒れる途中で引っかけた木をこれで挟み、アームを上げ下げしたり、車体を旋回したりして、木を地面に落とすのだ。

ただ、ハサミの向きは地面に対して垂直に固定されている。「ハサミを回転させられると、垂直に立っている木をつかむこともできて、もつと便がいんだだけ……」とは清水さんの言葉だ。そういう機械もあるようだが、林業専用の機械で、バックホーに取り付けて使えるようなものではない。そもそも、とても個人で手を出せる価格ではないということだ。

## 雪の中では 道を作って進む

雪の中では、前述のようにもつばら

「天地返し」に活躍する。だが、雪の中での操作にも注意が必要だ。なにしろ人間の体重でも、下手に歩くと膝まで雪に埋まってしまう。バックホーの重量ならなおさらだ。進む前にバケットで雪を固めて道を作りながら進む必要がある。不用意に進むと、自身の重さで雪にキヤタピラをとられてしまう。

万一、足をとられてしまった場合はどうするか？ アームで突っ張って車体を水平に保ち、その隙間にスコップを使って人力で雪を押し込み、叩いて固めるしかない。

ちなみに、除雪用のバケットというものも存在する。横幅が広く、一度に大量の雪をすくえるので近所では使っている人も多い。

雪国でも威力を発揮するバックホーだが、あくまで操作は慎重に。

(取材・萱原正嗣)